

トヨタの未来都市

「ウーブン・シティ」

裾野であす着工



トヨタ自動車裾野市内に建設する「ウーブン・シティ」のイメージ

自動運転、AIが生活支援

トヨタ自動車は23日、裾野市内に整備する先進技術の実証都市「ウーブン・シティ」を着工する。構想の発表から約1年。同市も、実証都市と運動したまちづくりに向けた取り組みを進める。実際に人が住みながら、自動運転や人工知能(AI)などを活用した新たな暮らしの実現を目指す未来都市づくりが動き出す。

同日は建設予定地で、自動運転の電気自動車(EV)が行う地鎮祭が開かれる。建設予定地は、昨年12月末に閉鎖したトヨタ自動車東日本東富士工場の跡地(同市御宿を中心とした70・8万平方メートル)。トヨタは詳細な区域を公表していないが、近接する同社東富士研究所の活用も考えられる。

ウーブン・シティ構想は昨年1月、豊田章男社長が米ラスベガスで明らかにした。実証都市では、自動運転の解決につながる「発明家」も入居するとしている。街の区画は150メートル四方が基本的な単位になるという。同社はこれまでに「5年以内」に人が住めるようにするとしている。

同社は他業種と連携しながら実証都市での取り組みを進める方針を掲げる。これまでに約3千の個人・法人からパートナーへの応募があったという。

地元・裾野市は実証都市では、自動運転の解決につながる「発明家」も入居するとしている。街の区画は150メートル四方が基本的な単位になるという。同社はこれまでに「5年以内」に人が住めるようにするとしている。

同社は他業種と連携しながら実証都市での取り組みを進める方針を掲げる。これまでに約3千の個人・法人からパートナーへの応募があったという。

地元・裾野市は実証都市では、自動運転の解決につながる「発明家」も入居するとしている。街の区画は150メートル四方が基本的な単位になるという。同社はこれまでに「5年以内」に人が住めるようにするとしている。

都市の効果を市域全体に波及させるため、独自の次世代型近未来都市構想「SDCC構想」を打ち出し、デジタル技術を活用したまちづくりを図る。今月4日には、豊田社長が同市の高村謙一市長や隣接する御殿場市の若林洋平市長を訪ね、実証都市を23日に着工すると報告していた。

(東部総局・八木敬介)